

### 伊藤忠テクノサイエンス / iVAST社

# MPEG-4活用し動画配信ビジネスを推進

伊藤忠テクノサイエンスが、米iVAST社と代理店契約を結び、動画コンテンツ配信システム構築ビジネスの強化を図っている。標準技術であるMPEG-4をフル活用し効率的なネットワーク配信を実現する「iVAST MPEG-4プラットフォーム」の販売を開始した。

「2003年には、ストリーミングやオンデマンド方式による動画配信ビジネスが動き出す。その中核技術として注目しているのが“MPEG-4”だ」と話すのは、iVAST社の製品を手掛ける伊藤忠テクノサイエンス(CTC)、ネットワーク・ソリューション推進第2部exMediaグループ・SIコンサルタントの井上太郎氏である。

インターネット接続のブロードバンド化が進展し、動画配信の環境が急速に整っている。ここにきて、にわかには求められてきたのが、動画配信規格の標準化である。

CTCでは、従来からコンテンツ配信事業者向けに、リアルビデオ、Windowsメディアプレイヤー、クイックタイムなどさまざまなシステムを提

案してきたが、それぞれの規格の互換性を確立することが難しく、また対応OSも制約されるという点に課題を感じていた。こうした互換性の問題を解消し、質の高い動画配信を実現できる標準規格であるMPEG-4に着目し、iVASTの「MPEG-4プラットフォーム」の販売を始めたという。

MPEG-4プラットフォームには、動画のエンコーディングソフト「iVAST Studio Encode」、オーサリング(制作)ソフト「iVAST Studio Author」、配信サーバー「iVAST Media Server」、「再生ソフト」までトータルに動画コンテンツを提供できる製品がある。

井上氏は「ただ垂れ流すコンテン



伊藤忠テクノサイエンス(CTC)ネットワーク・ソリューション推進第2部exMediaグループ・SIコンサルタントの井上太郎氏

ツ配信とは異なり、インタラクティブ性を生かすことで顧客管理も可能になる。このシステムを活用すれば、コンテンツプロバイダーの収益アップにも貢献できるはず」と話している。

再生機能については、CD、DVDといったディスクに収録されたパッケージメディアと、ストリーミング配信のいずれにも対応可能。さらにPC、携帯端末、セットトップボックスなどさまざまなクライアント端末上の再生にも対応するという。

### 米国衛星放送事業者が採用

MPEG-4プラットフォームの導入実績としては、米国の衛星放送事業者などコンテンツ配信事業者2社が採用。圧縮率の高いエンコーディング機能やインタラクティブ性のあるインターフェースが評価されているという。

日本での販売について、CTCでは動画配信サービスを始めるキャリアやコンテンツプロバイダーに提供していく考えだ。

井上氏は「動画配信の標準化はようやく進み出したところ。まずはMPEG-4の認知度を高め、動画配信ビジネスの拡大を図っていきたい」と話している。

図 MPEG-4プラットフォームを使った動画配信システム

